

会議・視察報告

第15回電子貿易国際フォーラム

ERINA 調査研究部主任研究員 中島朋義

5月28日、ソウルで開催されたERINAの研究交流協定の締結先である韓国の中央大学校、韓国電子貿易研究所(KETRI)が主催する国際会議、第15回電子貿易国際フォーラム(15th E-Trade International Forum)に参加した。今回の会議は韓国政府の助成を受けて電子商取引(eコマース)の研究を行っているKETRIが、東アジアを舞台としたeコマースの発展をテーマとして開催したものである。日中韓口の北東アジアの国々をはじめ、米国、ドイツ、ミャンマーなど世界各国から参加した専門家による活発な議論が行われた。ERINAからは私が北東アジアのFTA政策について、新井調査研究部長がユーラシアランドブリッジについて、それぞれ報告を行った。

これがすでに15回目の国際会議ということで、韓国この分野にかける意気込みがうかがえる。私自身は今回が3回目の参加になったが、その短い間にも対象となるeコマースビジネスがダイナミックに変化している実態を感じている。今回も中国浙江省杭州市の大学の研究者から行われた、杭州を地元とする世界最大級のeコマース企業、阿

里巴巴集团(アリババ・グループ)の変容についての報告が印象的であった。



第5回ERINAウランバートルワークショップ

ERINA 調査研究部主任研究員 Sh. エンクバヤル

内陸発展途上国国際シンクタンク(ITT for LLDC)の協力を得て、2016年6月13日に第5回ERINAウランバートルワークショップがUN会館にて開かれた。今年のテーマは、「モンゴルの貿易政策課題」であった。ワークショップには、産業省、食糧・農牧業省、財務省、法務省、国家登録・統計局、外務省、戦略研究所(ISS)、モンゴル国立大学(NUM)などの国家機関や学界、さらに、モンゴル商工会議所、インスティテュートフォーフューチャー、産業技

術連合(AITE)などの非政府組織から合わせて30人以上が参加した。

モンゴル経済は、特に1990年代初めに国が市場経済に移行して世界市場へと開かれてから、対外貿易が大きな位置を占めている。1997年に世界貿易機構(WTO)に加盟したモンゴルは、輸出主導型の成長戦略支援を目指して、開放的で比較的自由的な対外貿易政策を続けている。WTOの下、既存の範囲を超えた大幅に低い関税率の適用を続けてい